

(三) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

良岑の宗貞の少将、ものへゆく道に、五条わたりにて、雨いたう降りければ、荒れたる門に立ちかくれて見入るれば、五間ばかりなる檜皮屋のしもに、土屋倉などあれど、ことに人など見えず。歩み入りて見れば、階の間に梅いとをかしう咲きたり。鶯も鳴く。人ありとも見えぬ御簾のうちより、薄色の衣、濃き衣、うへに着て、ただちいとよきほどなる人の、髪、たけばかりならむと見ゆるが、

よもぎ生ひて荒れたる宿をうぐひすの人来と鳴くやたれとか待たむ

とひとりごつ。少将、

来たれどもいひしなれねばうぐひすの君に告げよと教へてぞ鳴く

と、声をかしうていへば、女おどろきて、人もなしと思ひつるに、ものしきさまを見えぬること思ひて、ものいはずなりぬ。男、縁にのほりてゐぬ。「**A** ものものがたまはぬ。雨のわりなくはべりつれば、やむまではかくてなむ」といへば、「大路よりはもりまさりてなむ、ここはなかなか」といらへけり。

時は正月十日のほどなりけり。簾のうちよりしとねざしいでたり。ひき寄せてゐぬ。簾も、へりはかはほりに食はれて、ところどころなし。うちのしつらひ見入るれば、むかしおほえて置などよかりけれど、**口惜しくなり**にけり。日もやうやう暮れぬれば、やをらすべり入りて、この人を奥にも入れず、女、くやしと思へど、制すべきやうもなくていふかひなし。雨は夜ひと夜降りあかして、またのつとめてぞすこし空晴れたる。男は女の入りむとするを、「ただかくて」とて入れず。日も高うなれば、この女の親、少将にあるじすべき方のなかりければ、小舎人童ばかりとどめたりけるに、かたい塩、肴にして酒を飲ませて、少将には広き庭に生ひたる菜を摘みて、蒸しものといふものにして、ちやうわんにもりて、はしには梅の花のさかりなるを折りて、その花びらに、いとをかしげなる女の手にて、かく書けり。

君がため衣のすそをぬらしつつ春の野にいでてつめる若菜ぞ

男、これを見るに、いとあはれにおぼえてひき寄せて食ふ。女、わりなうはづかしと思ひてふしたり。少将起き、小舎人童を走らせて、すなはち車にてまめなるもの、さまざまにもて来たり。「迎へに人あれば、今またもまり来む」といでぬ。それよりのち、たえずみづからも来とぶらひけり。よろづのもの食へども、なほ五条にてありしものは、めづらしうめでたかりきと思ひ出でける。

年月を経て、仕うまつりし君に、少将おくれたてまつりて、かはらむ世を見じと思ひて、法師になりけり。もとの人のもとに、袈裟洗ひにやるとて、

しもゆきの **B** 屋のもとにひとり寝のうつぶし染めのあさのけさなり

となむありける。

(「大和物語」による)

問十七 傍線部1「人来と鳴くやたれとか待たむ」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 人が来たと告げているが、私が誰を待っているのかを知っているのだろうか。
- ロ 人が来ると鳴いているが、いったい鶯は誰のことを待っているのだろうか。
- ハ 人が来たと言いが、その鶯の鳴く声を誰かが待っているのだろうか。
- ニ 人が来ると鳴いているが、私は誰が来ると思ってたらいののだろうか。
- ホ 人が来ると鳴いているが、鶯はいったい誰と共に待っているのだろうか。